



基

本



構

想



まちづくりの考え方 (基本理念)

「基本理念」は、まちづくりを進めるうえで大切にしなければならない考え方であり、普遍的・長期的な視点で設定することが必要です。そのため、第五次竜王町総合計画で掲げた基本理念を基に、社会潮流を踏まえて見直しを行った次の4つの考え方（基本理念）を持って、次世代に誇れるまちづくりに取り組んでいきます。

(1) 豊かな自然と歴史を誇れるまちづくり

豊かな自然環境、美しい田園風景や歴史・文化は、町民が愛着や誇りを持ち守ってきた大切な財産です。これらの魅力を次世代に引き継ぐためには、町民が自然や歴史の魅力を理解することはもちろん、SDGsの考え方を取り入れることや脱炭素化を進めること等による持続可能なまちづくりが必要です。

先人が守ってきた自然や風土、築いてきた暮らしや歴史に加え、新たな魅力を生み出し、生かすことで、すべての町民がまちに誇りを持つことができるまちづくりをめざします。

(2) みんなが安全に安心して暮らせるまちづくり

少子高齢化を伴う人口減少や地域・家庭のつながりの希薄化が進む中、大規模な自然災害の発生や新型コロナウイルス感染症感染拡大など、生活の中で不安を感じる要素は多岐にわたります。

福祉の充実や健康づくり、町民同士のつながりづくり、防災・減災対策、感染症対策などを通じ、子どもから高齢者まで誰もが生涯を通じて自分らしく活躍し、安心して暮らし続けることができるまちづくりをめざします。

(3) 地域特性を生かす持続可能なまちづくり

Society5.0 が示す AI や 5G、自動運転、デジタル化などが普及したスマート社会では、私たちの暮らしはより豊かで快適なものになると考えられ、こうした先端技術は、農業、商工業などの産業、移動や買い物などの日常生活、行政サービスの効率化など、あらゆる面で活用されることが期待できます。

働き方やつながり方、学び方の多様化が求められる時代の中で、自然や歴史・文化、農商工観光の魅力が揃い、地理的な優位性を含めた地域特性の強みを生かしつつ、先端技術を享受し、誰もが多様な暮らしができる持続可能なまちづくりをめざします。

また、持続可能なまちづくりを進めるうえで、豊かな暮らしや、農商工観光が揃ったまちの魅力が町内外の若者をはじめとした多くの人に届くよう、発信力を高めます。

(4) 協働によるまちづくり

まちづくりを進めるには、様々な場面での町民や地域、団体、企業の参画・協働が欠かせません。こうした参画・協働を促進するためには、人口減少が進む中でも、これまで培ってきた地縁型の地域コミュニティ活動を引き続き維持するとともに、誰もが目的ややりがいを持って参画できる新たな活動組織が求められています。

お互いに顔が見えるまちの規模を生かしつつ、地域をはじめそれぞれの主体が自立し、目的を明確に持ち得意分野で高め合うことができる関係を創っていくことが必要であり、多様な主体がまちの将来を見据え、企画段階から関わり、実行する竜王町らしいまちづくりをめざします。

めざすべき2030年の 竜王町の姿

1 まちの将来像

(1) まちづくりにおける将来像とは

将来像とは、町民（住民、地域、企業、団体など）と行政がともにまちづくりを進めていくうえで、共有できる到達点のイメージを示したものです。まちの個性が表現され、将来に向けたまちづくりの指針としての意味を含めています。

長期的な視点でまちづくりを進めていくためには、この将来像に基づき、まちづくりに携わるすべての人が同じ目標に向かってそれぞれの取組を推進することが重要となります。

(2) 竜王町の将来像

第五次竜王町総合計画では、「ひと」に着目することで、人口減少の抑制を図る取組を進めてきましたが、減少には歯止めがかかっていません。竜王町における人口減少は特に若い世代で進んでおり、そのことが出生数の減少にもつながり、人口減少が続く要因となっています。

そこで第六次竜王町総合計画では、若い世代を中心に、希望（夢や前向きな気持ち）を持つ人＝「若者」に焦点を当て、その誰もが希望を実現することができるまちであることをめざし、2030年の竜王町のありべき姿を『「若者も暮らしたい 希望かなえる 輝竜の郷」～ 心弾む 新時代へのチャレンジ ～』として、その実現に向けたまちづくりを進めます。

10年後の
あるべき姿

わか もの く
若者も暮らしたい
き ぼう き りゅう さと
希望かなえる 輝竜の郷
こころはず しん じ だい
～ **心弾む 新時代へのチャレンジ** ～

将来像

わかもの く き ぼう き りゅう さと
若者も暮らしたい 希望かなえる 輝竜の郷

人口減少に歯止めをかけ、まちの活力を維持していくため、若者をはじめ、前向きな思いを持つ竜王町に関わるすべての人（子ども、若者、子育て・働き世代、高齢者なども含む）が、仕事や子育て、趣味活動などの暮らしを通して地域に愛着を持ち、それぞれが活躍しながら、将来も継続して住み続けたいと思えるまちをめざします。

また、出産、子育て、学び、仕事、結婚、健康、長寿など、それぞれの幸せ（希望）を思い描き、それを人になえてもらうのではなく、自身の努力やお互いの支え合い、まち全体のしくみづくりにより実現することができ、豊かな自然や田園に囲まれた四季折々の実りあふれる理想的な環境の中で、誰もがきらりと輝くことができるまちを将来像とします。

姿勢

こころはず しん じ だい
～ **心弾む 新時代へのチャレンジ** ～

私たちの暮らす竜王町では、大規模な自然災害の発生への対応や誰もが安心して年を重ねることができる地域づくりなど、これからも着実に取り組まなければならないことがあります。

一方、新時代（ポストコロナ社会、脱炭素社会、Society5.0、令和など）では、竜王町が持つまちの潜在的な可能性を具体的に形づくることや先端技術の利活用、子どもたちの将来の希望をかなえるために、可能性を最大限に引き出すことができる子育て支援や教育の充実、若者も暮らすための住宅地確保に向けた市街化区域編入など、豊かで利便性の高いまちづくりにチャレンジしていくことが大切です。

これからのまちづくりを進めるにあたっては、人口減少が進行する中で様々な困難も予想されますが、まちに関わる町民や地域、企業、行政などすべての主体がやりがいや楽しみを持ち、役割を認識しながら集まり、「オール竜王」で10年後のあるべき姿の実現をめざします。

2 将来人口の見通し

総合計画は、今後 10 年間のまちづくりの方向を定めるものです。そのため、まちの規模を表す基本的な指標となる人口についての目標値を定め、この実現のための施策を展開していくことが必要です。

(1) 将来目標人口

目標

① 2030年:11,000人以上 (2040年以降10,000人以上を維持)

② 2030年:生産年齢人口比率56%以上

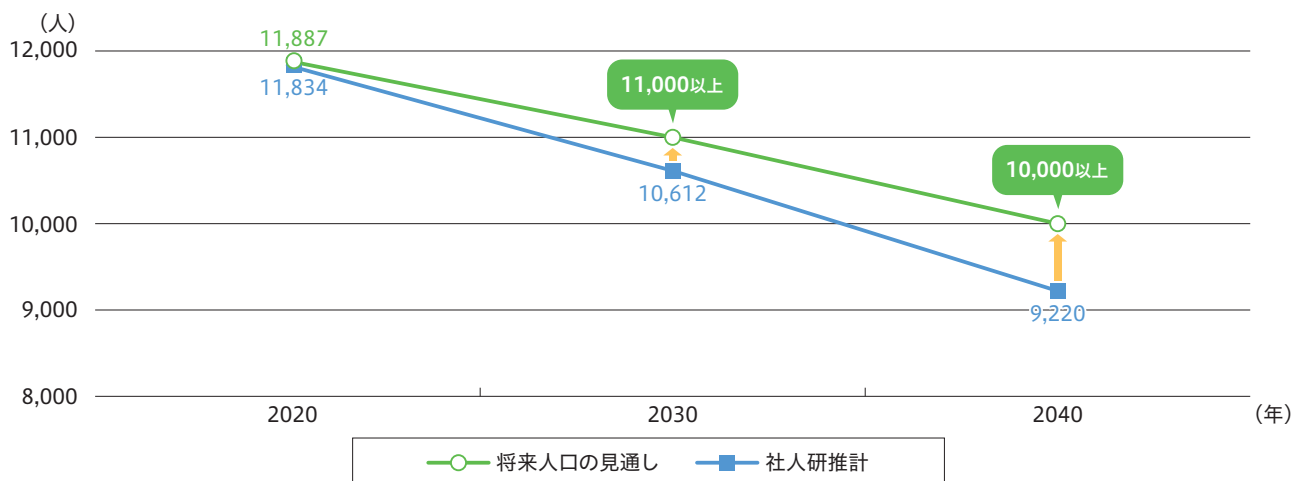
第五次竜王町総合計画に基づき、企業誘致や集合住宅の整備などに取り組んできましたが、人口減少には歯止めがかかっておらず、特に若い世代の転出超過が続いています。一方、竜王町では町内企業で働く町外在住の人が多いことから、平成 27 年（2015 年）国勢調査によると、昼夜間人口比率は 138.8% で、滋賀県内 1 位、全国市区町村でも 40 位（原子力災害により、全域が避難指示区域である町村を除く。）と高く、昼間に多くの人が活動している特徴的なまちとなっています。

定住人口の減少が避けられない状況の中で、町外から働きに来られる人を町内に留めることや町内出身者のUターンや都市部からのIターン、子育て・教育環境の充実による出生数の維持・改善を図り、できるかぎり減少を緩やかにしていくことが必要です。

また、町内就労者をはじめとする関係人口やアウトレットモールへの来訪者などの交流人口の増加を図ることで、地域経済やにぎわいなど、まちの活力を維持するとともに定住人口の増加につなげることが必要です。

本計画では出生数の維持や若い世代を町内に留めるとともに新たに呼び込むことで、人口減少を緩やかにしながら若い世代の割合を維持し、令和 22 年（2040 年）以降も 10,000 人以上を維持することを長期的な目標として見据え、令和 12 年（2030 年）のめざすべき将来人口を 11,000 人以上、生産年齢人口比率（15 ～ 64 歳）を 56%以上とすることをめざします。

■人口の見通し



※社人研推計は、国立社会保障・人口問題研究所による推計

※将来人口の見通しは、各種まちづくりの取組により、転入・転出による社会動態、出生などによる自然動態の改善を図った際の人口の見通し

(2) 人口減少抑制と人口構造維持の見通し

将来人口の見通しを実現するためには、転入・転出による社会動態、出生・死亡による自然動態の減少幅を改善する必要があります。また、まちの持続可能性を確保するためには、仕事や地域の担い手となる世代＝生産年齢人口の割合を維持することが必要です。

竜王町では進学、就職を契機とした若い世代の流出による転出超過がみられますが、年度によっては大手企業寮入寮者の移動により転入超過となる場合があります。そのため、大手企業寮入寮者の影響を除外した社会動態改善の見込みを行った後、毎年大手企業寮入寮者分を一定数上乗せることで人口見通しを行っています。

社会動態の改善に向けて、若い世代にとって魅力的な仕事の創出、暮らしの環境づくりを行い、町内からの流出を留めるとともに、町内出身者のUターンや都市部からのIターンを促進することで生産年齢人口の転出超過による減少を改善します。

また、子育て環境や教育環境を充実することで、減少傾向にある出生数の維持・改善を図り、自然動態を改善することをめざします。

町内出身者や町内就労者をはじめとする関係人口や観光で竜王町を訪れる交流人口を増やし、定住人口へとつなげることができるよう、住まいの地としての魅力を幅広く発信していきます。

参考

■ 転入・転出数の見通し（大手企業寮入寮者分除く）

	実績値					目標値 (R12)	主な対策等
	H28	H29	H30	R1	R2		
転入	258人	298人	291人	330人	314人	319人	受け皿整備、魅力発信、移住促進等
転出	375人	353人	370人	384人	386人	347人	愛着醸成等
社会動態	-117人	-55人	-79人	-54人	-72人	-28人	

■ 出生・死亡数の見通し

	実績値					目標値 (R12)	主な対策等
	H28	H29	H30	R1	R2		
出生	93人	66人	76人	67人	53人	77人	結婚・出産支援、子育て世代への支援等
死亡	104人	113人	119人	131人	138人	138人	
自然動態	-11人	-47人	-43人	-64人	-85人	-61人	

■ 社会動態・自然動態の見通し（年間の減少数）

	現状値 (R2)	社人研推計 (R12)	目標値 (R12)	備考
社会動態	-75人	-66人	-28人	
自然動態	-50人	-62人	-61人	
人口	≪ 2020年 ≫ 11,887人	≪ 2030年 ≫ 10,612人	≪ 2030年 ≫ 11,000人	△ 1,275人→△ 887人 ※ 388人の改善

※社会動態・自然動態の現状値 (R2) は、過去5年間の変化数を平均した年間の数値

※社会動態・自然動態の社人研推計 (R12) と目標値 (R12) は、今後10年間の変化数を平均した年間の数値

※上記社会動態は、大手企業寮入寮者分を除く。人口推計には470人程度 (R2実績) で固定して見込んでいる。

■人口構造の維持の見通し

	現状値 (R2)	社人研推計 (R12)	目標値 (R12)	備考
生産年齢人口	7,012 人	5,768 人	6,156 人	※ 388 人の改善
生産年齢人口比率	59%	54%	56%	

社会動態・自然動態の改善を図るためには、若い世代の転入の受け皿となる住宅が必要です。竜王町には農振農用地、市街化調整区域など、土地利用上の用途に限りがありますが、市場調査などを踏まえ、民間と積極的に連携することにより、竜王町コンパクトシティ化構想に基づく竜王小学校跡地等の市街化区域編入も視野に入れ、住宅地として地区計画を策定している鏡北部地域、未利用の町有地等において魅力ある戸建て住宅・集合住宅の整備促進を図ります。

また、既存集落における空き家については、今後さらなる発生が想定されることから、適正管理と利活用につなげます。

■新たな受け皿の見通し

		戸数	人数	備考
新規住宅開発 (町有地他)	竜王小学校跡地他	150 戸	450 人	小学校の移転後、戸建て・集合住宅をゾーニングし、段階的に整備促進
新規住宅開発 (民間用地)	鏡北部地域	150 戸	450 人	竜王町松陽台地区地区計画により、住宅地区に区分
既存資源の活用		空き区画や空き家、未活用地、未利用町有地、集落周辺の農用地（白地）		

3 土地利用構想

まちづくりの基盤となる土地利用構想について、竜王町コンパクトシティ化構想を見据えながら、竜王町ランドデザイン構想における30年後のまちの理想の姿を念頭に置きつつ、土地利用の全体方針やまちづくりの“核”、“拠点”、“軸”を設定し、将来像や目標人口を達成できるよう計画的なまちづくりを進めます。

(1) 土地利用の全体方針

町民の生活を支える基盤として、安心・安全を確保することを重視しつつ、次の方針に基づきながら、計画的な土地利用を推進します。

10年後のあるべき姿を実現するために必要な土地においては、農振農用地の除外や市街化区域編入等に取り組むなど、民間活力を誘導できる条件整備を整えつつ、希望をかなえる土地利用にチャレンジし、若者も暮らしたいまちをめざします。

① 中心核と各拠点へのバランスの良い機能配置

中心核において生活利便性を高めるとともに、機能を中心核のみに集中するのではなく、各生活拠点（集落・住宅団地）や道の駅竜王かがみの里、道の駅アグリパーク竜王を中心とした観光・交流拠点、産業拠点も含めてバランスのとれた都市機能の配置を図り、町全体の生活利便性の向上やにぎわい、活力を感じられるまちづくりを図ります。

② 町内外の拠点をつなぐ道路軸の強化

町内の中心核、各生活拠点や観光・交流拠点、産業拠点と町外の鉄道駅や通勤・通学の利便性を高めるため、安全で機能的な道路整備や地域の実情に応じた公共交通の確保等により、町内外へのアクセス強化を図ります。

③ 農商工、住などの地域特性を生かす土地利用

農業、商業、工業などの多様な産業、恵まれた自然や田園環境、特徴ある歴史・文化の中で育まれてきた住まいの地としての地域特性を守り、生かすことでまちの魅力を高める土地利用を進めます。

(2) まちづくりの“核”

竜王町コンパクトシティ化構想に基づく、「利便性が高く、多様な交流を育む中心核」を形成するとともに、各生活拠点とネットワークでつなぐことで、町全体のバランスのよい発展をめざします。

① 交流・文教ゾーン

図書館、公民館等に加え、新たな小学校や幼稚園（こども園）など教育関連機能の集約や学童保育所、コミュニティセンター、公園などの整備により、子育て環境の充実と多様な交流機会の創出を図ります。

② 居住ゾーン

小学校、幼稚園跡地他を活用し、新しい小学校をはじめとする教育施設や商業施設などに近接するゾーンであることを強みとして、民間活力を誘導することにより、戸建て住宅や集合住宅など、時代に即した魅力的で多様な住宅の提供を図ります。

③ 複合ゾーン

民間活力を誘導し、飲食店やカフェ、特産物販売所や民間医療機関など、利便性が高く、魅力的でにぎわいが生まれる場づくりを進めます。

④ 商業ゾーン

スーパーや民間医療機関など、生活の利便性を高める機能を集約したゾーンとして新たな機能も加えながら維持します。

⑤ 行政ゾーン

役場での手続きや相談のワンストップ化、オンライン化・デジタル化に対応した、便利で質の高い行政サービスを提供します。

(3) まちづくりの“拠点”

恵まれた自然環境や歴史・文化資産やまちの活力を次世代へと引き継いでいくため、計画的かつ重点的に魅力ある拠点づくりを進めます。

① 集落および住宅団地などの生活拠点

既存集落においては、空き家・空き地を利活用した住宅建設を促進し、主に町内居住者の町外への流出抑制や町内出身者のリターンを中心に定住人口の増加を図るとともに、既存住宅団地では、空き区画への入居促進を図るなど、若い世代や町内就労者を中心に定住人口の増加を図ります。

また、既存の生活拠点やその周辺の未活用地や未利用の町有地において、地区計画などを活用した新しい住宅整備の促進を図ります。

あわせて、若い世代や高齢者、女性などの多様な参画により自治会などの地域コミュニティ活動が維持され、将来にわたって安心して暮らし続けられる地域づくりへの支援を継続的に行います。

② 広域商業拠点（名神竜王インターチェンジ周辺）

名神竜王インターチェンジ周辺は、アクセスの良さやアウトレットモールの集客力を生かし、商業施設などのさらなる充実を促進するなど、まちの玄関口としてにぎわいが感じられるエリアづくりを図ります。

③ 観光・交流拠点

既存の観光・レクリエーション機能に加え、道の駅竜王かがみの里、道の駅アグリパーク竜王や周辺地域における機能の拡充により、竜王ブランドの強化と魅力の情報発信拠点とするとともに、滞在型観光や複合的な機能の導入を進めます。

妹背の里の活用など、史跡等を生かした拠点機能の充実や自然体験型レクリエーションの拠点としての機能強化を図ります。

④ 産業拠点

町南部エリアに立地する自動車産業の工場用地や滋賀竜王工業団地、滋賀山面工業団地、名神竜王インターチェンジ周辺などにおける新たな工場や研究開発部門を伴った企業の誘致などにより竜王町のものづくり産業の振興を図ります。

また、近江牛発祥の地として畜産業の振興を図るとともに、近江米や野菜、果樹など農業の振興にも力を入れるべく、AI・ICT技術を生かしたスマート農業や地域特性に応じた農業の展開を図り、農業の魅力向上と観光との連携を推進します。

(4) まちづくりの“軸”

まちづくりの“核”、“拠点”を効果的かつ重層的にネットワーク化する骨格となる軸を形成し、まち全体の魅力と活力の向上をめざします。

① 国土幹線軸

名神高速道路は、全国に繋がる国土軸として、その機能を活用します。

国道8号は、周辺市町を含む国土レベルの幹線軸として、その機能強化と将来の土地利用を見据えた整備促進活動を実施します。

② 広域連携軸

隣接する市と繋がる国道477号・県道を基本として広域連携軸を設定し、その軸を活用した広域的な機能を発揮する土地利用を図ります。

また、周辺市町と連携し、名神竜王インターチェンジ周辺の整備と連動した広域ネットワーク構想路線の整備に向けた促進活動を実施します。

③ 拠点連携軸

町内の拠点間を結ぶ道路ネットワークを構築し、スムーズな町内移動を図るとともに、通勤や物流車両などの集落内通過の抑制と産業の活性化に向け、幹線道路のバイパス化について検討を進めます。

④ 一般軸

広域連携軸や拠点連携軸を補完する機能や町民生活面で必要な機能の維持を図ります。歩行者や自転車などの通行の安全を確保するため、道路機能の充実を図ります。

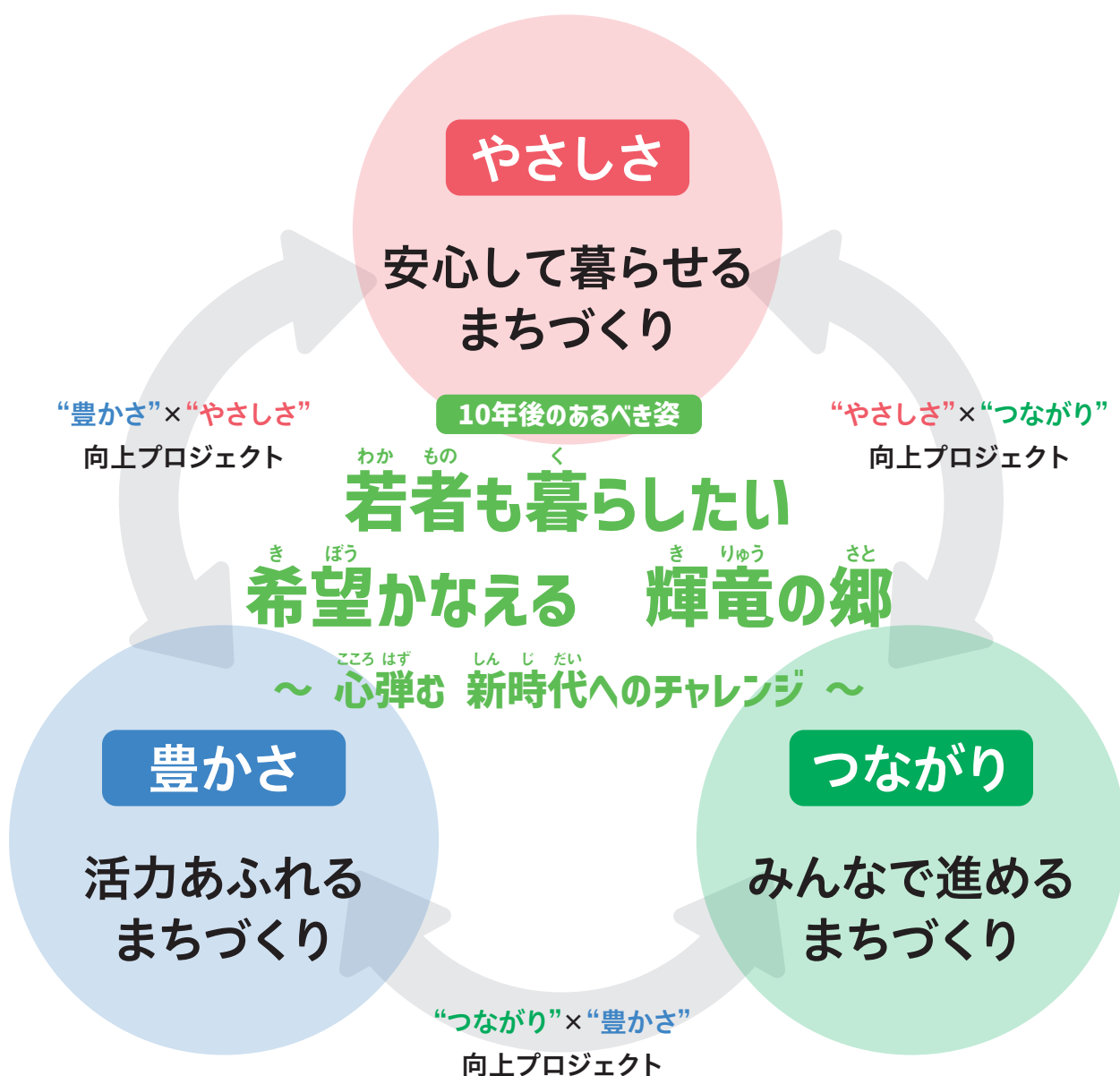
基本構想



3つのまちづくり分野

第六次竜王町総合計画では、10年後のあるべき姿『「若者も暮らしたい 希望かなえる 輝竜の郷」～ 心弾む 新時代へのチャレンジ ～』の実現をめざし、「豊かさ」「やさしさ」「つながり」の3つの分野により、まちづくりを進めていきます。

また、「豊かさ」「やさしさ」「つながり」の3分野について横断的に取り組むことで、まちの魅力を向上させる「新時代へのチャレンジ」として、竜王町のこれからのまちづくりをリードする重点プロジェクトを位置付けます。



豊かさ

活力あふれるまちづくり ～発展・進化を生み出す豊かさの創造～

竜王町の地理的優位性や産業構造などの特徴を生かしてまちをより便利に、そして活性化することで魅力を発信していく取組に関する分野で、魅力ある農業の振興、企業誘致による商工業の振興や多様な交流を生む観光の振興、これらの産業振興による雇用創出など、にぎわいを生み出す施策を推進します。また、効果的な土地利用や住宅整備の誘導、道路や地域交通の充実、インフラ（上下水道）の強靱化など、利便性の高い生活環境づくりに関する施策を推進します。さらに、産業・雇用や生活利便性だけでなく、子育て支援や教育も含めたまちの魅力を高め、幅広く情報発信することで、若者の移住・定住の促進を図るなど、発展・進化を生み出す「攻め」のまちづくりによる豊かさの創造をめざします。

やさしさ

安心して暮らせるまちづくり ～次世代に引き継げるやさしさの創造～

快適かつ安全な環境の中で、誰もが生涯にわたって健やかに安心して暮らせるまちを創出していく取組に関する分野で、切れ目のない子育て支援や魅力ある学校・園づくり、子ども・若者育成支援、スポーツ、社会教育の推進、歴史・文化の保全と活用など、次世代を担う人材を大切に育んでいく施策を推進します。また、地域共生社会の構築や高齢者、障がい者（児）福祉の充実、健康寿命の延伸に向けた健康づくりなど、互いに支え合うことができる地域づくりのための施策を推進します。さらに、防災、防犯・交通安全など町民の安全を守るための施策や、持続可能な地域づくりに向けた循環型社会の推進など、次世代に引き継げる「守り」のまちづくりによるやさしさの創造をめざします。

つながり

みんなで進めるまちづくり ～新たな時代に対応したつながりの創造～

まちづくりを効果的に進めるためのしくみづくりに関する分野で、人権尊重や男女共同参画、多文化共生の推進、地域コミュニティの活性化と町民の主体性を生かした協働の推進を図るとともに、様々な分野における先端技術の利活用や多様な連携、健全で効率的な行財政運営の推進など、ポストコロナ社会、脱炭素社会、Society5.0 などの新たな時代に対応したつながりの創造をめざします。